

改訂版

宇都宮江戸時代歩き地図



企画・編集・制作：NPO法人宇都宮まちづくり推進機構

宇都宮市は、二荒の森を中心に門前町、城下町、宿場町として古い歴史とともに発展してきました。しかし残念なことに、戊辰戦争と第二次世界大戦により、多くの歴史的資産が失われてしまいました。そこで、宇都宮市をより深く知るために、旧町名と城下絵図に着目し、現代の地図に城下絵図を重ね合わせた「宇都宮江戸時代歩き地図」を作りました。

この地図を片手に街なかを歩いて、新しい発見を楽しみながら、本市の長い歴史に想いを寄せてみませんか。

「宇都宮江戸時代歩き地図」

- 【日光山大明神祭礼絵巻】弘化4年(1847)に描かれた絵巻。
- 【宇開御記】幕末の文久4年(1864)に書かれた宇都宮城下の案内書。

【文化財表示板(旧町名用)】高さ180cm／幅22.5cm／厚さ5cm】エリアンボルマーク・名称・解説文・宇都宮城下図等に加え設置場所の現住所を表示。

■出典

- ・日光山大明神祭礼絵巻：崎尾秀彰氏蔵、画像提供栃木県立博物館
- ・宇開御記：個人蔵、画像提供宇都宮市教育委員会
- 日光山大明神祭礼絵巻解説文引用
- ・栃木県立博物館「とちぎの山・鉢・屋台」2017より引用、一部変更
- 参考文献一覧
 - ・宇都宮市教育委員会「宇都宮の歴史」1989「宇都宮の軌跡＜改訂版＞」1999
 - ・宇都宮市「宇都宮市史 第6巻近世通史編」1982
 - ・宇都宮市「宇都宮市六十年史」1960
 - ・宇都宮市商工会議所「宇都宮工商会議所百年史」1994

企画・編集・制作：NPO法人宇都宮まちづくり推進機構 宮再発見専門委員会
発行者：NPO法人宇都宮まちづくり推進機構 〒320-0806 栃木県宇都宮市中央3-1-4 栃木県産業会館2階
TEL 028-632-9215 http://www.machidukuri.org/
発行年：2018年 第1刷
2022年 改訂第1刷

【旧町名一覧表…1】

| 旧町名 | 町名の由来 | 現在の町名 |
|----------|---|---|
| ①南新町 | 本多正純の日光街道の付け替えによって城下への南の入口に付いた町名。 | 花房2・3丁目/新町1、2丁目 |
| ②熱木町 | 一般には熱木の不動尊が祀られていたことに由来する説と、神への供物「贋(にえ)」である鳥獣を掛けた木があったことから贋木町(にえぎ)とも呼ばれていた。 | 花房2丁目/新町1丁目 西原3丁目/一条4丁目 |
| ③歌橋町 | 昔、当地に住んでいた人が歌を詠み万葉集に載ったという伝承からの町名の起因となるが根拠はない。 | 一条3丁目/西原3丁目/ 西4丁目 |
| ④大黒町 | 大黒天を記した祠堂があったことに由来、傍らに宇都宮城の裏鬼門除けとして神明宮がおかれた。 | 西原1丁目/西原2丁目 |
| ⑤伊賀町 | 武家屋敷が多くあり、芳賀伊賀守の屋敷があったことに由来。 | 西3丁目/西原1丁目 |
| ⑥蓬莱町 | 中国の伝説である神仙が住み、不老不死の薬がある蓬萊山にちなみ蓬萊觀音を祀る道場があったことに由来。 | 西2丁目/大寛2丁目/ 西原1丁目 |
| ⑦茂波町 | 本多正純が日光街道を開くとき、繁茂した薮を切り開いたとするいわれの町名。(明治の初め頃から昭和の町名改正時、茂春町となる。) | 西2丁目/大寛2丁目 |
| ⑧挽路町 | 本多正純が日光街道を開くとき、付近の道を西側へ引いて町を作った(引路町)からともどり、町内に轆(ろくろ)挽きの家の家が多かったからともいわれている。 | 大寛1、2丁目/材木町/ 西原1丁目 |
| ⑨代官町 | 武家屋敷が多くあり、江戸時代初期、代官屋敷が置かれたことに由来。(明治の初め頃から昭和の町名改正時、大寛町となる。) | 材木町 |
| ⑩材木町 | 藩の御用材を調達する材木問屋が軒を並べていたことに由来。 | 伝馬町/西1、2丁目/大寛1、 2丁目/材木町 |
| ⑪材木横町 | 材木町の横(西)にひた横丁に由来し、大運寺の門前町として開け、傘屋・桶屋などがあった。(明治の初め頃、西原村との境になっていたので、境町となつた。) | 材木町 |
| ⑫一ノ筋 二ノ筋 | 城の外堀西側に位置する武家屋敷町で、城の近くから南北通りを順に一ノ筋、二ノ筋、三ノ筋、四ノ筋と呼んでいた。城から遠くに行く程、屋敷は狭くなつていった。 | 江戸町/伝馬町/宮園町/松 が峰1、2丁目/花房2丁目/ 西1~3丁目/一条1~4丁目 |
| ⑬三ノ筋 四ノ筋 | 明治の初め頃から昭和の町名改正時、一乗町、二条町、三条町、四条町 | 伝馬町/小幡1丁目 |
| ⑭新石町 | 元和5年(1619)、下町の米穀商3軒が当地に移転してきて、初めは西石町と呼ばれる後に新石町となつた。 | 小幡1丁目/泉町 |
| ⑮本郷町 | 江戸時代、金川の西側一帯を西原と称し、その本村であったので本郷町と呼ばれるようになつた。 | 小幡1、2丁目/清住2、3丁目 |
| ⑯小幡(旗)町 | 街道口の防備にあたった徒士組(かちぐみ)の小旗組が住んでいた武家屋敷に由来。 | 清住町1、2丁目/小幡1丁目 |
| ⑰新田町 | 西原に開発された新田が、日光街道沿いに人家が増え、新田町と呼ばれるようになつた。(明治の1875)、飼町の一部を併せて清住町となる。) | 伝馬町/泉町/小幡1丁目 |
| ⑱伝馬町 | 日光街道と奥州街道の分岐点にあたり、問屋場(といやば)が設けられ、荷を運ぶ人馬(伝馬)が備えられていたことに由来。本陣をはじめ沢山の旅籠屋が軒を並べ、城下で最も賑やかな場所であった。 | 泉町 |
| ⑲小伝馬町 | 伝馬町の発展に伴つてできたことから起つた町名。 | 泉町 |
| ⑳餉差町 | 鷹狩りの鹿の糞となる小鳥を捕らえる餉差人が住んでいたことに由来。(明治の初め頃、壽町となる。) | 伝馬町/泉町/池上町/本町 |
| ㉑池上町 | 宇都宮の中心部は昔、池邊郷(いけのべのうご)と呼ばれていたが、その中心部がこの付近である。また、鏡が池の上部にあったことから池上町となつたといわれている。 | 大町 |

【旧町名一覧表…2】

| 旧町名 | 町名の由来 | 現在の町名 |
|-------|---|----------------------------|
| ㉒池上裏町 | 池上町の裏側に開けたことに由来し、単に裏町とも呼ばれていた。(明治22年(1889)、泉町となる。) | 泉町/本町 |
| ㉓鼠穴 | 武家屋敷地の一つ、城の大手門前の広小路(現在の池上町にある亀山書店からオランダ式付近)から伝馬町に抜ける近道。ここが鼠の通るような細道だったことからついた俗称。 | 伝馬町/池上町/江野町 |
| ㉔江野町 | 本多正純による城の手前町の際、古い橋を埋めて町場とした。通りだったところを整備してできた町。最初は江戸町(いたが)と、大樺木があつたので「樺の町」から江野町になったとの説もある。 | 伝馬町/江野町/池上町/宮園町/中央1丁目/中央本町 |
| ㉕杉原町 | 宇都宮大明神(二荒山神社)の社地で、杉の木が多かつたことに由来。 | 本町/瑞田2丁目/馬場通り1、2丁目 |
| ㉖鉄砲町 | 戦国時代の終わり頃、宇都宮氏が鉄砲鎗を住ませたことに由来。職人、商人が多く住んでいた。 | 馬場通り1、2丁目/曲師町 |
| ㉗曲師町 | 江戸時代の初め頃、曲物師(槍や槍の薄い板を曲げて容器などを作る職人)が当地に移り住んだことに由来。 | 曲師町/中央本町 |
| ㉘馬場町 | 宇都宮大明神(二荒山神社)の門前町として開けたところで、流鏑馬を行ひ馬場に由来。「バンバ」は俗称。 | 馬場通り1~3丁目/曲師町/ 二荒町 |
| ㉙駅舎町 | 宇都宮城の巨唐突(おほきだき)守の駅舎(せきしや)を通した当初は、「切り通し」とも呼ばれていた。 | 馬場通り3丁目/二荒町 |
| ㉚日野町 | 江戸時代に千手観音を祀る寺があったことに由来。 | 二荒町 |
| ㉛日野横町 | 伝承では宇都宮大明神の神田があり、「御田」と呼ばれたことに由来。(明治39年(1906)に描かれた宇都宮真景園図によると、この辺りに「サリ沼」があった。) | 馬場通り3丁目/宮町/大通り 1丁目/仲町 |
| ㉜千手町 | 元和6年(1620)に宇都宮大明神(二荒山神社)から工町まで抜ける「切り通しができるまで」は日野町側が入り口の袋小路であったことに由来。 | 馬場通り3、4丁目/二荒町 |
| ㉝小田町 | 江戸時代に千手観音を祀る寺があったことに由来。 | 堀田3丁目 |
| ㉞宮島町 | 湿地で囲まれた島のような地形であったので、「宇都宮の島から宮島になつた」といわれている。 | 馬場通り4丁目/宮町/大通り 1丁目/仲町 |
| ㉟今小路町 | 本多正純による町割り変更の際、城の北東部から奥州街道へつなぐ新しい「小路」を作ったことから今小路町となつた。 | 一番町/二番町/二荒町 |
| ㉟剣宮町 | 古い剣を納め祀る「剣宮神社」という祠があったことに由来。現在は二荒山神社境内に移されている。 | 二荒町/中央5丁目 |
| ㉞六軒町 | 宇都宮城の今小路門前広場の西側にあたり、ここに六軒の家の家があったことに由来。江戸時代の中頃に今小路町に統合された。 | 中央5丁目/二荒町 |
| ㉞元石町 | 江戸時代初めまで「東石町」と呼ばれ、米問屋があったが、本多正純による町割り変更の際に移り住んだので「元石町」となつた。 | 二番町/三番町 |
| ㉞石町 | 戦国時代から穀類の専売権を認められた商人が住んでいたのに由来。新石町の穀物商人を支配していたこともある。 | 一番町/二番町/三番町 |
| ㉞肴町 | 本多正純による町割り変更の際、六軒町にあった魚屋(乾物が主)を大町に移し、肴町と呼んだのが由来。 | 大通り2丁目 |
| ㉞大町 | 奥州街道沿いで宇都宮城下の中心的な問屋町。大膳市が開かれたので、「大膳市の町」から大町に変化。 | 馬場通り3丁目/大通り2丁目/ 一番町 |

【旧町名一覧表…3】

| 旧町名 | 町名の由来 | 現在の町名 |
|--------------------------------------|---|----------------------------|
| ㉛大工町 | 築城の際に大工を住ませたことに由来するといわれているが、江戸時代には職人を広義で大工と呼んでいたことから職人の町を意味する。 | 大通り1、2丁目 |
| ㉜寺町 | 生福寺、法華寺、妙空寺が並んでいたのに由来。町内は全て三つの寺院の門前地であった。 | 大通り1丁目/仲町 |
| ㉝新宿町 | 上河原で開かれていた市が参勤交代などの通行で支障をきたしたため協道に移され、大町の大膳市より新しくきた市なので「新宿市」と呼ばれる町名になった。 | 大通り1、5丁目/仲町 |
| ㉞扇町(うちわまち) | 扇、团扇(うちわ)職人が住んでいたことに由来。 | 仲町/栄町/宮町/塙3丁目 |
| ㉟宇都宮城下の北東端に位置し、間口が小さい家が多く並んでいたことに由来。 | 栄町 | 千波町 |
| ㉟壁町 | 壁職人が住んでいたことに由来。 | 清巌寺の前町に由来。(明治の初め頃、清水町となる。) |
| ㉟上河原町 | 元は田川の河原地で、中河原、下河原に對して上流にあるので上河原となつた。奥州街道沿いの細長い町人町で「新宿市」に移る前の元の市があった場所。現在も続く「初日市」その名残。 | 大通り5丁目/千波町/仲町 |
| ㉟小袋町 | 大きな蛇行する田川に北・東・南を囲まれた半月状の袋小路になっている地形に由来する。 | 大通り3、4丁目 |
| ㉟押切町 | 田川の氾濫によってしばしば土手が決壊し、水害をもたらした地に由来。旭橋(現・押切橋)は水戸、真岡方面に向かう主要な橋だったので、人馬の往来が多かつた所。 | 大通り3丁目/天神1丁目/ 三番町 |
| ㉟博労町 | この付近に腕の良い伯楽(馬の獣医)が住んでいたことから伯楽町が新じた説と、博労(馬や牛の仲買人)が住んでいたのに由来する説がある。奥州街道の出口に位置した馬喰町とも書かれていた。 | 今県1丁目/駅前通り1丁目 |
| ㉟八日市場 | 本多正純の町割り変更前の奥州街道沿いで開かれていた八日市を、道場宿街道沿いに移したのが由来。(明治22年(1889)宿郷町となつた。) | 駅前通り2丁目/南大通り1丁目 |
| ㉟中宿 | 慶長5年(1600)、城主蒲生秀行のとき、城下にあった紺屋をこの地に移したのが由来。(江戸期、八日市場に吸収。) | 駅前通り2丁目 |
| ㉟川向 | 江戸時代中に宿と呼ばれ、宇都宮城上級武士の下宿敷や下級武士の屋敷などががあったが、江戸時代後年に八日市場や宿郷村の一部になった。 | 南大通り1丁目 |
| ㉟東新町 | 城下から見て、単に田川の向こう側なので川向、上級藩士の下宿敷や足輕下宿敷があつたので川向(川向屋敷)と呼ばれた。(明治11年(1878)に川向町となる。) | 駅前通り1~3丁目/南大通り4~4丁目/宮みらい |
| ㉟猿が町 | 武家屋敷地でしたが、正徳4年(1714)、奉行人屋敷を移して新しく町屋とした。城下の東にできた新しい町なので東新町(明治初期、川向町に吸収。) | 駅前通り3丁目 |
| ㉟下河原町 | 築瀬村と宿郷村の境に位置し、馬の健康祈願のために厩(馬を舞わせる猿引(さる回))が住んでいたのに由来するといわれているが、田川沿いの氾濫に関係する町名と思われる。「サル(去る)」は氾濫による侵食の意味。 | 南大通り2丁目 |
| ㉟馬場通り | 元は田川の河原地で、上河原、中河原に對して下流にあるので下河原となつた。下河原門を出たところに位置し、武家屋敷と築瀬村との境。 | 下河原1丁目/河原町/花房1丁目 |

* 橙色文字は、弘化4年(1847)の宇都宮大明神祭の付け祭りに参加した氏子町。青色文字は、武家地で、原則町名は無く俗称で。二荒山神社は、二荒山神社の門前や、西の町人が多く住む地域を下町、西の武家地が多い地域を上町と呼び、現在でも何かと対抗意識を持っているのが宇都宮人のこだわりです。旧町名は、自治会の名称として現在も生かされています。

「城と門前の関係」

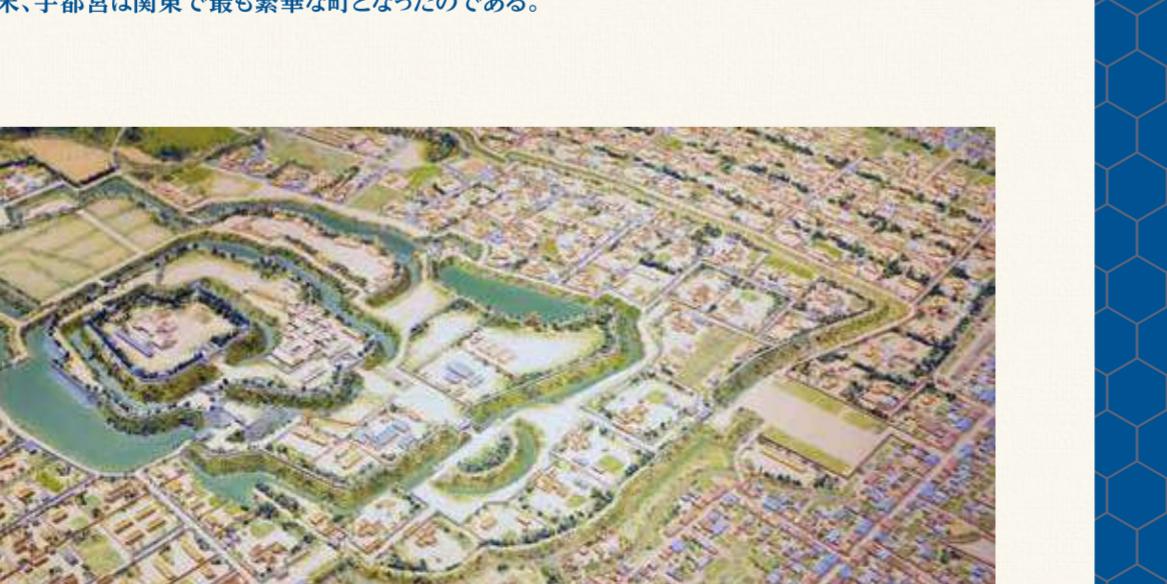
福田三男

宇都宮城は10世紀から11世紀ごろ、藤原秀郷または宇都宮宗円によって建てられたといわれる。二荒山神社の南に正対する豪族居館であった。間を結んだのが馬場道、現在のパンパ通りである。鎌倉時代以後は宇都宮氏の居城となり、城郭としての整備が進んだ。

次に宇都宮が大きく変貌するのは江戸時代初期、15万5千石で城主に封じられた本多正純が宇都宮城と下町を大改造したことによる。現在の宇都宮の原型はこの時にできた。

宇都宮城は江戸城の北の守りであり、東照宮社参では將軍の宿城となる。堅固であるとともに壯麗さが求められた。城の中心、御本丸は將軍専用の宿泊施設、御成御殿を建てるため、天守閣は造られなかったが、代わりに8棟の櫓と20か所以上の門を持つ壮麗で巨大な城であった。大手門を西の江戸町口に移し、広小路を設けたのは、城を壮大に見せるとともに十数万人とされる社の行列を考えたことであつたろう。

城の東、田川との間を通っていた奥州街道を城の西側に移し、伝馬町から日光街道を分岐させた。その結果、宿場としての機能は、城の北西部にある伝馬町、池上町に移った。江戸時代末、宇都宮は関東で最も繁華な町となつたのである。



宇都宮城下 復元模型 栃木県立博物館蔵

「二荒山神社の祭りと氏子町」

柏村祐司

一荒山神社の付け祭
三八の町内がハ一種の山車・屋台・練り物を練り出している様子が描かれています。江戸の天下祭に匹敵する祭禮であったことがわかります。

二八の町内がハ一種の山車・屋台・練り物を練り出している様子が描かれています。江戸の天下祭に匹敵する祭禮であったことがわかります。

宇陽路記 文久四年(1864)
戊辰戦争で失われてしまったとして、宇都宮の歴史も書かれていました「宇陽」ことは宇都宮城下を意味し、古くから好んで使われています。昭和になると宇都宮市の郊外を、陽東・陽西・陽南・陽北と呼ぶようになりました。学校の名前にもなっています。十三の絵が何が探してみませんか。



協賛会社：株式会社 井上総合印刷／下野菓子處 うさぎや／協同組合 宇都宮餃子会／宇都宮共和国大学陣内研究室／AIS総合設計 株式会社／一般社団法人 県央まちづくり協議会／株式会社 興建／株式会社 五光／有限会社 サエラ／株式会社 スキット／電気工事は 中央電機通信 株式会社へ／株式会社 栃木銀行／一般社団法人 栃木県建築士事務所協会／栃木信用金庫／トヨタウッドユーホーム 株式会社／自動ドアのことなら 日本クリエーターズ工業／藤井建設 株式会社／定食 ふじもと／フタバ食品 株式会社／株式会社 ホテルニューアイタヤ／株式会社 横倉本店／渡辺正昭税理士事務所

大明神社門前(1846)
楼門は、安政六年(1859)に再建しましたが、二十年後の戊辰戦争で社殿と共に焼失しました。現在は都橋と名前を変えています。

着商中(組合)が寄進ました。現在は都橋と名前を変えています。

前と下町に時を告げました。

現在は都橋と名前を変えています。

前と下町に時を告げました。

現在は都橋と名前を変えています